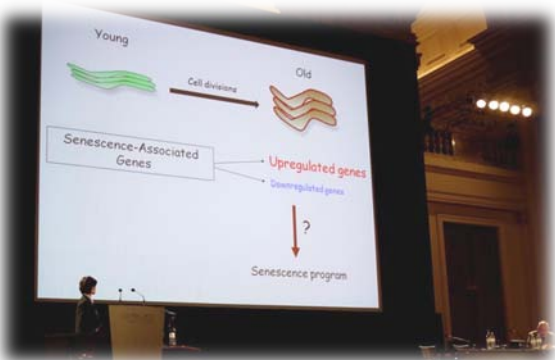


国際会議 ESACT2011 に参加して

派遣国名:オーストリア共和国
派遣期間: 2011.5.14~2011.5.20

学会名: The 22nd meeting of the European Society for Animal Cell Technology (ESACT)

私は、オーストリア・ウィーンで開催された ESACT2011（欧州動物細胞工学会）に参加し、「Identification of senescence-associated genes and their implication in the induction of cellular senescence」について、招待講演者として口頭発表しました。この欧州動物細胞工学会は、物質生産系や機能評価系において、動物細胞を用いて研究を行っている世界中の研究者が集まる、動物細胞工学分野では世界最大の学会の一つです。学会発表はウィーン王宮 Hofburg の宮殿内で行われました。ウィーンの街は歴史的建造物が多く、会場の周囲を歩くだけでも素晴らしい眺めを楽しむことが出来ました。会場となった広間は、かつては舞踊会が開催されたほどの由緒あるホールです。このような会場で千人近くの研究者を前に講演することは大変な緊張でしたが、発表後は積極的な質問を受け、有意義な議論を交わすことが出来ました。今回の学会では、「細胞老化」という自分の研究テーマに沿ったシンポジウムに参加できましたので、他の研究者の発表は大変ためになり、また刺激にもなる内容でした。シンポジウムセッションの座長は、細胞老化と酸化ストレスに関する研究の第一人者であり、有益な情報が得られたばかりでなく、今後の国際的な交流につながる良い機会となりました。学会の間は色々な国から来た研究者とディスカッションをすることができ、自分の研究に興味を持ってもらえたことが大変嬉しく、自信にもつながりました。しかしながら、英語でのコミュニケーションには困難もあり、より一層語学の向上に努める必要性を感じました。今回は、初めての海外発表で語学不足などの反省点もありますが、今後の研究活動にとって貴重な経験となりました。ここで得られた経験を活かして、自分の研究をより発展させていきたいと考えております。



質問を受け、有意義な議論を交わすことが出来ました。今回の学会では、「細胞老化」という自分の研究テーマに沿ったシンポジウムに参加できましたので、他の研究者の発表は大変ためになり、また刺激にもなる内容でした。シンポジウムセッションの座長は、細胞老化と酸化ストレスに関する研究の第一人者であり、有益な情報が得られたばかりでなく、今後の国際的な交流につながる良い機会となりました。学会の間は色々な国から来た研究者とディスカッションをすることができ、自分の研究に興味を持ってもらえたことが大変嬉しく、自信にもつながりました。しかしながら、英語でのコミュニケーションには困難もあり、より一層語学の向上に努める必要性を感じました。今回は、初めての海外発表で語学不足などの反省点もありますが、今後の研究活動にとって貴重な経験となりました。ここで得られた経験を活かして、自分の研究をより発展させていきたいと考えております。

最後に、本派遣事業におきましてご支援いただきました先生方やスタッフの皆様にご挨拶申し上げます。